

給<sub>レ</sub>タル月行明細書ノ檢照  
○各裁判所ノ雜費等

第二房々長一人

養料及資助  
退老恩給 ○法官省官國議院員  
華列印章局負養料ノ支出 ○旧法官及旧法官ノ妻子資助ノ分賦 ○省官給料ノ月誌 ○法官ノ出勤日給簿

第三房々長一人

書庫及省内雜務  
法章原本ノ保存 ○國王ノ命辭執政ノ令文國議院ノ議狀省議院ノ議狀ノ重件本省ノ迴章ノ貯藏 ○法章編冊ノ編成 ○法章頒布簿冊ノ貯藏 ○本省書庫諸文書ノ保存類纂 ○本省書目 ○省館ノ内則 ○使丁ノ身分 ○内部ノ物料出費 ○物料檢照 ○賣却 ○諸記証ノ檢査 ○緊急給料雜費ノ便宜支出

○民事寮

寮頭一人

民事寮分ラ二房トス

第一房々長一人

裁判管務及法律  
管務トハ裁判ノ章程庶務ヲ云法律ノ執事ヲ議草ニ及成法ヲ護持  
タルノ務ヲ云

又分ラ二部トス

第一部ハ

民事裁判ノ管務ニ係レル往復 ○外國トノ際互ニ罪犯追糾ノ附托 ○權限ノ爭 ○失踪人等裁判ノ公布 ○外國人ニ向ヒ訴狀及外

國人ヨリ来タル訴状ノ被告人ニ付違○諸

裁判官ノ輪番毎年民刑ノ輪番○代言人名籍○代

言方法○民籍

第二部ハ

裁判構成便宜○民事裁判商事裁判治安裁

判ノ創立及轉移○臨時局ノ設立各裁判所定レル局

廷ノ外事務繁多ナル時ハ臨時別ニ局ヲ設ク○民事商事ニ係リ

タル法章命律ノ議案○裁判管分ノ議案○

大審院ノ民事裁判編冊ノ檢閱○民事ニ付

キ法章ヲ護スル為ニ大審院ニ向テ上告司法

執政ハ法章ヲ護スル為ニ大審院ニ向テ已決案ヲ破毀スルヲ求ムルノ權ヲ有ス

第二房ニ長一人

公證人及訟務諸士ノ事ヲ管ス其目左ノ如

シ

公證人ノ管轄構成規律○各地公証人ノ廢

置○大審院代言人各裁判所代書人評價人

使部商買警人ノ身分即訟務諸士○警則規律○諸

訟務ノ廢置

國壘課民事寮ノ支分タリ

國壘課長一人

第一部ハ

歸化○外国人佛國居住許可○佛蘭西人身  
分歸復○外國仕官ノ免許○婚姻年齒親姻  
ノ持免

第二部ハ 大記室ノ管屬ス

氏姓ノ變改○榮貴稱號○家名家産○國璽  
稅規則○國璽議員ノ身分規律

○刑事寮

寮頭一人

第一房 刑事房長一人

罪犯ノ追糾○糾治及處刑ノ監察○刑法ヲ  
護スル為ノ上告民事○裁判所權管相觸ル  
者ヲ剖決スルノ願○無情アルニ付キ裁  
判所ノ管理ヲ轉移スルノ願○會審院長官  
ノ任命○會審院開會會計ノ検査○海陸軍  
裁判ニ係リタル事件○外國ト罪犯交付條  
約ノ檢閲及施行○外國ト罪犯糾治ノ附托  
○刑事權限○刑事裁判費ノ議○陪審名籍  
ノ検査○大審院裁決編冊刑事類○刑事上  
告ノ大審院ニ送付○上告ニ付キ裁決ノ送

付○翻審願ノ検査○翻審願簿冊ノ貯蔵審

トハ已ニ取決シタル者ヲ  
翻審スルヲ云治罪法ニ見エ

第二房 恩赦 房長一人

恩赦減等ノ願○苦役人監獄年少犯懲治所

ニ毎年恩賜スル典赦○罪人ノ復権○刑事

課恩赦課ノ文書發付

第三房 綜計 房長一人

水曜講ノ草構毎年初ノ水曜日ニ大目代坐ニ

登リ講説ヲ為シ前年ノ事情利害ヲ條陳ス各ケテ水曜講トナス○刑事裁判

綜計表ノ草構○民事商事同上但ニ民事商事ノ綜計表

及水曜講ノ草構ハ  
民事寮頭之ヲ監ス○外国裁判綜計ノ彙纂輯○

裁判ノ類編

第四房 裁判費用 房長一人

刑事裁判費用ノ検査規正及令紙ノ發付

○司法省議事員

凡ソ各省皆議事局アリテ重要事件ヲ會議シ執政ヲ贊助ス

議長 大書記之ニ充ツ

民事堂頭

刑事堂頭

國廳課長

議事員ハ諸課長ノ具狀ニ依テ各房ニ於テ

攷構シタル處ノ左ノ事件ヲ檢校ス

死罪○本省及執政内局吏員ノ任免昇進○各

地公証人ノ創設轉移○諸訟務士定員○商事

裁判所ノ廢置○裁判所局廷ノ廢置○裁判

所人負増加○本省吏員ノ規律處罰○諸訟  
 務士ノ不律罪加重ノ議尋常處罰加重ノ議十キアル時  
 者ハ省議負ヲ狂ズ○家名家産榮貴称号○法官訟務  
 士ノ奪俸○法官給料ノ増加○本省褒賞金  
 ノ分賦○養料願○旧法官及旧本省吏員及  
 其妻子ノ資助願○上下裁判所及檢職局ノ  
 雜費規則

仍ホ其它九リ事救課ニ兩属スル者九リ司  
 法執政若クハ大書記若クハ各課長ヨリ議  
 事員ニ送り議ヲ取ル者

議事員ハ少ク凡一周ニ一次會ヲ行フ議  
 事ハ衆説ヲ以テ決ヲ舉ク議決ノ後議長ヨ  
 リ司法執政ニ具上メ批可ヲ取ル

○国壘議員

国壘議員十二人ハ専ラ左ノ諸件ニ任ス  
 議長一人書記官一人會計官一人

産業証紙ノ付与○榮貴称号ノ授与傳付ニ係  
 リタル命令ヲ檢審スル事○家名家産ノ封立  
 交易減削廢除ノ願文ヲ作ル事○以上諸件ニ

係ル国墾税ヲ収メテ之ヲ大蔵ニ納ムル事○  
氏姓爰改帰化佛蘭西居住願外國仕官許可佛  
蘭西人身分帰復婚姻特免等ノ国墾税ヲ收納  
スル事

又凡ソ依托ヲ受ケテ名代人トナルトヲ得ヘキ  
事件

○官刺所

官刺所ハ

法章命令條規文書ヲ刺刷分付售賣スル事○

國議院用務○大蔵發出ノ楮幣証札ノ刺刷○

名紙兵卒休暇札官許札專賣札教育許可札ノ類證券紙往

來信牌等ノ印刷○諸省ノ官刺○司法執政ノ

判決ヲ以テ官費ヲ以テ刺刷スル学科ノ著述

○私刺ノ東洋文字ニ係リ及其ノ它繁難ノ故

ヲ以テ官版ヲ借ル者ハ司法執政ノ裁ヲ經テ

之ヲ許ス

頭一人 副頭一人

官刺所分テ六務トス曰工作務曰法章編

冊務曰會計務曰出納務曰検査務曰内部

務並ニ務長一人

又東洋版刺部アリ

又私著官刺願検査評事十余員大學之士  
之ニ充ツルソ私著ヲ以テ官刺ヲ願フ者  
ハ會議ヲ開テ可否ヲ評決ス司法執政議  
事ニ長タリ官刺所頭副長タリ

司法省分課圖

司法執政





論罪方法

校

論罪方法

司馬

司馬

論罪方法

有罪

凡ノ罪ト云者ハ第一其人其事ヲ負フ第二其事  
 其人ノ不直タリ凡善惡トナク其事ノ賞罰ヲ負  
 フベキ者ハ其人我レヨリ之ヲ為シ為スト為サ  
 ールト我レニ在テ它人ノ為ニ強制セラレス由  
 及善惡理非ヲ識別メ有心ヲ以テ為シタルニ非  
 サレハ善行亦其人ノ所為トメ賞ヲ受クベカラス  
 惡モ亦之ニ同ニ故ニ人ヲ罪ニ置クニ三義アリ  
 一曰自由二曰有心三日事律ヲ犯ス即千不直ノ謂

有罪

無罪

其人其事ヲ為メ自由ヲ以テセス有心ヲ以テセ  
 ス及律ヲ犯サル者無罪トス故ニ刑法ニ於テ  
 無罪ヲ掲クル者四一曰瘋癲有心ヲ以テセズ 二曰強制  
自由ヲ以テセズ 三曰依理自防四曰循法行命直ヲ失ハス律ヲ犯サス

瘋癲

凡瘋癲無罪ハ争フベカラサルノ元則タリ故ニ禽  
 獸ハ罪ナシ刑法六十四條云犯人現ニ罪ヲ犯セ  
 ン時瘋癲ニ於テ在リシ者ハ重輕罪ナシ但ク法  
 ニ無罪ト云モノハ是レ其犯主論スヘキナシ其  
 事無罪ニアラス

凡無罪ト云者其實ニアリ其事法ニ於テ罪  
 ナシ依理自防及循法行命是ナリ其事罪ア  
 リ但ク其犯主ニ罪ヲ論セズ即チ漢律ニ所謂  
 勿論ト云者瘋顛及強制是ナリ

凡ソ固有ト病感ヲ論セズ久暫ヲ問ハズ喪心ノ  
 類皆瘋癲トス但ク酒ニ酔ヒ及方藥ヲ以テ喪心  
 セシ者ハ瘋顛ノ例ニアラス律條ニ依リテ無罪  
 ヲ擬スルヲ得ズ但其情ヲ酌シ無罪ヲ判スル  
 ハ法官及陪審ノ權ニアリ

凡ソ罪ヲ犯シタル者ハ際々皆有心ヲ以テ視ル  
本犯若クハ代言人ヨリ辯護メ其壘心及迷乱ヲ  
証スル者ハ法官及陪審之ヲ裁酌ス然ラザル者  
ハ皆本心犯ヲ以テ裁ス

強制

刑法六十四條又云凡ソ犯人抗スベカラサルノカニ  
因リ強制セラレタル時ハ輕重罪ナシ是亦所謂勿  
論ノ義ナリ

凡ソ強制トハ有形無形ヲ論セズ抗スベカラサル  
ノカヲ以テ其人ノ心意一及メ之ヲ逼制スルヲ  
云若シ其力抗スヘカラザルニ至ラサル者ハ強制無罪  
ノ例ニアラスト云凡亦其ノ情ヲ酌量メ罪ヲ減ス  
ルハ法官及陪審ノ權ニアリ

有形ノカトハ人ノ手ヲ執テ強テ不義ノ書ニ名  
印セシメ強テ家ニ火ヲ放タシメ拘囚メ公務陪審ニ出  
頭ニ及ヒ兵役ノ類ヲ奉行スルヲ得サラシムルノ類

無形ノカトハ死若クハ其它ノ危害ヲ其身若ク  
ハ其愛重スル所ノ者ニ加フベキヲ以テ之ヲ脅  
迫スルヲ云此時ハ法官其脅迫實ニ緊切ナリニ歟  
否ヲ審ニシ及其脅迫ノ危害ト其脅迫ヲ避ル為

ニ犯シタル事トノ輕重ヲ比較シ之ヲ裁酌スル  
ヲ要ス

凡ソ罪ヲ犯シタル者ハ緊メ皆自由ヲ以テ視ル  
其強制ヲ証スルハ本犯ノ辯護ニ由ルテ瘋顛ノ  
例ニ同シ

依理自防

凡ソ人タル者自ラ其身ヲ保ツノ權アリ 性法因  
テ自ラ其身ヲ護シ不正ノ侵逼ヲ防クノ權アリ  
刑法三百二十八條云已レ理ニ依リ自ラ防キ或  
ハ理ニ依リ他人ヲ防キ其時已ムテヲ得ヌメ殺

傷毆擊ヲ行ヒシ者ハ輕重罪ナシ

凡ソ自防ク者理ニ依ルト称スルハ其義四アリ

第一侵逼不正ナルト 故ニ犯人追捕ヲ被リ自防ク者理ニ依ルトスル

ヲ得 ス 第二侵逼強暴ナルト カヲ以テ 第三危害切

迫ナルト 第四已レノカヲ以テ防クノ外他ノ方

法ナキト 警卒ノカヲ呼ノ暇ナキヲ云 此ノ四事其一ヲ欠ク

時ハ依理自防トスルヲ得ス

自防ク者受ル所ノ危害ニ至テハ律條正文ナシ

是獨リ生命ノ害ニ止ラズ毆傷ノ支節ヲ賊ヒ拷

責拘囚致淫凡ソ人身ニ侵逼スル者皆其中ニ在

リボアソナード氏曰一日防生律條人身ノ侵逼  
 命ニ曰防身体三日防<sub>ニ</sub>支<sub>ニ</sub>藥<sub>ニ</sub> 律條人身ノ侵逼  
 ニ限り物件ニ及サズ然レ氏物件ノ侵迫其回復  
 スベカラザル者例ハ負債者強テ債証ヲ破毀  
 セントシ債主算還ヲ得ルノ後強テ其算還証書  
 ヲ除キ棄テントシ人アリ強テ家ニ火ヲ放タレ  
 トスルカ如キ之ヲ防テ殺傷毆撃スル者律條ニ  
 据リ無罪ヲ擬スルノ正例ニアラズト云氏其情  
 ニ從テ無罪ヲ判スルハ法官及ヒ陪審ノ權ニア  
 リ

三百二十九條云一ニ夜ル牆ヲ越ヘ戸ヲ破テ家  
 ニ入ル者ヲ防キ殺傷毆撃ヲ致シ二ニ強盜強掠  
 ヲ防キ殺傷毆撃ヲ致シタル者ハ並ニ自防キ已  
 ハイヲ得ザルノ例ニ依ル

循法行命

三百二十七條云法令ニ循ヒ相当ノ上官ノ命ヲ  
 以テ行フタル 殺傷毆撃ハ輕重罪ナレ故ニ劊手  
 刑ヲ行ヒ兵吏被告人或犯罪人ヲ逮捕シ獄吏被  
 告人或犯罪人ヲ繫囚シ使部吏靜産ヲ没入スル  
 皆罪ナシ

第一ニ法令之ヲ命シ或ハ之ヲ許ス  
法律明許ノ  
正文アルヲ

云第二ニ上官之ヲ指揮スニツノ者互ニ相兼又  
 ル一ヲ要ス故ニ法令之ヲ許スト云氏上官ノ指  
 揮ナクメ兵吏獄吏擅ニ罪人ヲ捕ヘ及ヒ獄ニ繫  
 ク者ハ無罪トスル一ヲ得ス上官ノ指揮アリト  
 云氏法令ニ依ラザル者亦無罪トスル一ヲ得ズ  
 兵卒其士官ノ指揮ヲ承テ人ヲ毆撃ニ獄卒獄監  
 ノ指揮ヲ承テ脱監ヲ捕ヘサルカ如キ並ニ首從  
 同罪トス但刑法百十四條及ヒ百九十九條ニ掲ケ  
テ知リ難キ者ハ此例ニアラス以上四件共ニ掲ケテ無罪トス  
 但シ疵顛強制ハ事不幸ニ出テ罪ヲ論セズ依理  
 自防及循法行命ハ事正義ニ出テ罪ノ論カズキ  
 ナニ此レ其異ナル所ナリ

四件皆陪審員中主目ノ問罪ノ有ニ包括ス若  
 之四件中其一アリテ陪審無罪ト判断スル時ハ  
 會審長官直チニ本名ヲ解放ニ刑ヲ科セズ

輕重情狀

犯者已ニ有罪ヲ以テ論ス又其罪タルノ事体ヲ  
 分割ノ成實モリスコトナキ情狀ノニツトナス成實トハ以テ  
 罪名ヲ成ス曰殺曰盜曰放火ノ如キ此レナケレハ  
 罪ヲ成サス殺犯ノ成實ニ曰人ヲ殺ス曰用意ヲ

以テ人ヲ殺ス人ヲ殺スニ用意ヲ以テセサル者

ハ皆故殺ヲ 賊盜ノ成貨三曰物ヲ奪フ曰偷竊ノ

意曰物他人ニ屬ス所屬ナキ物ヲ取ル 有婦夫私

其ノ成貨二曰妾ヲ蓄フ曰妾ヲ其家ニ蓄フ毒ヲ蓄フ

ル其家ニ於テセザル時 毒殺犯ノ成貨三曰兇

ヲ行フ曰殺人ノ意曰毒人ヲ殺スベキノカアル

物ヲ用フ此ノ類是ナリ情状トハ犯罪ノ重輕各

犯殊異等シカラサル者ヲ云法官已ニ其罪名ニ

据リ律条ヲ按シ又其情状ニ從ヒ之ヲ酌量ス酌

量ノ方法二一曰法律ニ掲ケタル各条科罰至重

各条ニ掲ケザルノ外猶ホ降成メ輕キニ就ク

加重情状

加重情状法律ニ掲クハ者通例二一曰再犯二曰

官吏輕重罪ヲ監臨スル者同ク其盜スベキ所ノ

罪ヲ犯ス特例ノ目甚多ニ殺ニ謀殺陰殺ノ情状

アルハ死ヲ以テ論シ故殺ハ無期若役ニ上ル謀殺陰殺ハ加重入レ死○法ヲ説

ク者謀殺陰殺ヲ以テ 賊盜犯ニ夜盜二人以上共

盜持兇器踰牆破戸用偽鍵入現住人家為盜強盜

加重情状

司法官



以テ論シ尋常盜ハ輕強姦条ニ十四歳以下ノ男

女ヲ強姦スル者ハ有期苦役中至重ニ就テ論ス

ルカ如キ是ナリ

罪之成質ト加重情状ト往々混淆ノ辨シ難ニ就

中殺人條是ナリ諸家謀殺陰殺ヲ以テ加重情状

トシ殺生兒ヲ以テ罪ノ成質ト成メ論スルト共

ニ異議ナシ殺尊属親ニ至テ其說一ナラス「オ

トラニ氏ハシリスアリニクニス明法家ニ及メ是レ殺人條中加重者

ニメ別ニ一罪名ニアラストセリ必ス罪ノ成質

ト加重情状ヲ分別スル所以ノ者ハ第一之ヲ分

タサレハ以テ罪ヲ論スベカラス例如ハ有婦

夫私姦條妾ヲ其家ニ蓄フルト罪ノ成質ニメ加

重情状ニアラス故ニ妾ヲ蓄フト云氏其家夫婦同居

家ニ於テセサル者ハ罪ヲ成サス訴アリト云氏

置テ理セズ若シ妾ヲ蓄フルトテ罪ノ成質

情状トセシメハ其家ニ蓄フルト獨リ加重

強姦條十四歳以下ノ男女ヲ強姦スル者ハ就重

テ論ス是強姦已ニ罪ノ成質タリ十四歳以下十

ルト加重情状トス故ニ十四歳以下ニアラスト云

氏亦罪ヲ成ストヲ失ハズ和姦十二歳以下ノ男

女ヲ犯ス者和ト云氏罪ヲ論ス是和共ハ罪ノ成

質タルニアラス其十二歳以下タル一正ニ罪ノ成質

タリ故ニ十二歳以下ニアラザレハ罪ヲ成サス訴ア

リト云氏置テ理セズ和共無罪第二罪ノ成質ハ陪審

問目中主目ノ問有無ニ包括シ加重情状ハ別ニ

一問目ヲ為ス互ニ相混スベカラズ第三從犯ハ首

犯ト問罪トス但罪ノ成質ニ於テ其情ヲ知ラザ

ルノ附從人ハ同罪ニアラス殺ト盜トハ罪ノ成質タリ故ニ殺ト盜

トノ情ヲ知ラスメ之ニ器械ヲ已ニ罪ノ成質ニ

於テ其情ヲ知ル時ハ加重情状ニ於テ其情ヲ知

ラスト云氏亦同罪タル一ヲ免レバ已ニ賊盜ノ情ヲ知

從スル者其夜盜強盜ノ情ヲ知ラズト云氏亦同罪トス

ロクロン氏曰會審院長官刑法中罪ノ成質ト

加重情状トノ區別ヲ深ク知ラシ一ヲ要ス

千八百三十六年前ハ旧治罪法ノ文明瞭十

ラズメ此事猶定例タラズ千八百三十二年

三十五年三十六年歴次脩正ヲ經ルノ後若

シ加重ノ問ヲ別ニ設ケズメ主目ノ中ニ包

括スル時ハ名ケテ混濁トシ裁判ノ效シテ

失フ「按スルニ仏國「コト」書草創以來僅ニ六

十年ヲ經ルニ過ギス其中刑法ハ民法ニ比  
 スレバ條章尤モ簡ニメ節目尤モ粗ナリ漢律  
 隋唐以來千余年歷世潤色ヲ經ル者ト同カ  
 ラズ故ニ其大ナル者重罪行ヲテ不遂者遂  
 クル者ト罪ヲ同ニ附從犯首犯ト罪ヲ同ス  
 ルノ類重罪行而示遂遂クル者ト罪ヲ同ス  
 刑律家其過刻ヲ議スル者多シ鶴田  
 氏嘗テ「ホアソナ」ト氏ニ告クルニ「国律ニ  
 於テ行而不遂者之ヲ遂クル者ト罪ヲ同セ  
 バ及セ首從犯罪ヲ同セザル」ヲ以テ「ス其  
 「ホアソナ」ト氏「律條」稱セリ  
 小ナル者各條刑律家ノ指擿スル所歷々ト  
 メ証ス「シ」唯其條章簡ニメ節目粗ナリ故  
 ニ「ゴド」頒布ノ後明法ノ科マリテ疑義讞條  
 ノ大審院ニ上告ニ大審院之ヲ判スル者法  
 官据テ以テ條例トシ堆然トメ卷ヲ積ム然  
 ルニ建國法ニ於テ大審院ノ判狀亦法官ノ  
 私例タルニ過キスメ依テ大法定章トナス  
 「ゴド」得ス立法官定ムル所ノ「ゴド」ト並ヒ行  
 フ「ア」タハス於是乎法ヲ説ク者異議錯出  
 又繁碎ヲ極ム刑律家ナル者專ラ刑法ヲ講  
 スルノ學明法科ト同カラス現今法學第一  
 ト稱スル所ノ「ホアソナ」ト「シ」氏ノ若キ乃千其

ト稱スル所ノ「ホアソナ」ト「シ」氏ノ若キ乃千其  
 スルノ學明法科ト同カラス現今法學第一  
 又繁碎ヲ極ム刑律家ナル者專ラ刑法ヲ講  
 フ「ア」タハス於是乎法ヲ説ク者異議錯出  
 又繁碎ヲ極ム刑律家ナル者專ラ刑法ヲ講  
 スルノ學明法科ト同カラス現今法學第一  
 ト稱スル所ノ「ホアソナ」ト「シ」氏ノ若キ乃千其

十年ヲ經ルニ過ギス其中刑法ハ民法ニ比

スレバ條章尤モ簡ニメ節目尤モ粗ナリ漢律

隋唐以來千余年歷世潤色ヲ經ル者ト同カ

ラズ故ニ其大ナル者重罪行ヲテ不遂者遂

クル者ト罪ヲ同ニ附從犯首犯ト罪ヲ同ス

ルノ類重罪行而示遂遂クル者ト罪ヲ同ス刑律家其過刻ヲ議スル者多シ鶴田

氏嘗テホアソナト氏ニ告クルニ国律ニ

於テ行而不遂者之ヲ遂クル者ト罪ヲ同セ

ズ及セ首從犯罪ヲ同セヤル一ヲ以テス其

ホアソナト氏其體不稱セリ小ナル者各條刑律家ノ指擯スル所歷々ト

メ証スレシ唯其條章簡ニメ節目粗ナリ故

ニゴトレ頒布ノ後明法ノ科マリテ疑義讞條

ノ大審院ニ上告ニ大審院之ヲ判スル者法

官據テ以テ條例トニ堆然トメ卷ヲ積ム然

ルニ建國法ニ於テ大審院ノ判狀亦法官ノ

私例タルニ過キスメ依テ大法定章トナス

一ヲ得ス立法官定ムル所ノゴトト並ニ行

フ一アタハス於是乎法ヲ説ク者異議錯出

又繁碎ヲ極ム刑律家ナル者專ラ刑法ヲ講

スルノ學明法科ト同カラス現今法學第一

ト稱スル所ノ此年三月ヲ以テ物故セリ氏ノ若キ乃千其

ノ魁ナリ此ノ徒「エド」ヲ議スル者多シ況ニ  
 ヤ明法ノ條例ニ於テ「手殺尊屬親條」ノ如  
 キ明法家は是レヲ以テ「它ノ人ヲ殺ス者」ト同  
 日ニ論スルヲ欲セス尋常殺犯中加重情状  
 アルニ止マラズ別ニ一種重罪ノ成實ト  
 シ殺生兇犯ト例ヲ同ス生兇ヲ殺ス者新生ノ間人ノ未タ知ラ  
サルニ棄メ之ヲ殺ス故ニ其罪重シ是レ尋常殺人犯ト其成實ヲ同フセズ  
 「オルトラシ」氏是レヲ以テ「它ノ殺人犯」ト科  
 ヲ同ニ獨リ父子ノ義ヲ以テ加重情状トス  
ブ一「氏」夫レ罪ノ成實ト加重情状ヲ分別

スルハ彼ノ刑法名例ノ大ナル者而メ殺尊  
 屬親ハ律ニ於テ何等ノ大事ナルソ然ルニ  
 其說現ニ猶ホ一定セズ此レ其ノ繁碎ノ証  
 ニアラズ「手巴里府書庫法科ノ書屋棟」ニ充  
 ツ又新著刻出スル者日ヲ逐テ其ノ幾千卷  
 ナルヲ知ラズ法官タル者亦難シ陪審ノ問  
 目ニ至テ治罪法中ノ最重キ者然ルニ旧法  
 三百三十七條ニ從ハハ問題本末混濁メ陪  
 審ヲメ分辨シ難カラシム前ニ「グ」フ氏ノ説ニ見ユ  
 千八百三十六年ニ至テ始テ改正ヲ經然ル

二三百三十七条ノ文猶ホ旧ニ依リテ刪ラズ此レホ「  
ド」ノ粗漏缺畧漸ヲ以テ補正ヲ要スルノ証ナリ一  
寛宥 ヲキスキユス

凡ソ事情原諒スベキ者アリテ罪ヲ減スルモノ其ノ通例  
トメ律ニ掲クル者名ケテ寛宥トシ其ノ特例トメ律ニ  
掲ケス專ラ法官ノ裁酌ニ任スル者名ケテ酌量情  
状トス寛宥法全宥アリ減宥アリ全宥ハ夫婦親屬相盜  
親屬相容隠獄囚脱監四月ヲ過キヌメ捕得ル者ハ獄監罪ヲ  
宥ハ童女ヲ誘拐ク終ニ自娶ル者ハ其罪ヲ宥ハ謀反及偽  
造宝貨自首メ其同黨ノ者ヲ告發シ及捕縛ヲ助ル者ハ

宥ルノ類

凡無罪ト全宥トノ別ニ陪審無罪ノ答ハ主目ノ問ノ  
中ニアリ寛宥ノ問ハ別ニ一條ヲナス若ニ別ニ一條ヲ為サル  
時ハ裁判ノ効ナシニ  
無罪ヲ判スルハ會審院長官ノ獨權ヲ以テ陪審ノ答言ヲ  
聽クノ後直チニ之ヲ宣告ス寛宥ハ法官三人評議ノ後  
ニアラサレハ宣告セス三ニ無罪ハ之ヲ解キアリキ一  
トマン寛  
宥ハ之ヲ免スアブリリユ  
シオン解ト免トノ  
別後ニ見ユ  
減宥一日十五歳以下少年凡ソ十五歳以下罪ヲ犯ス者陪審  
ニ問フニ其識別善悪ヲ  
識別スヲ以テ犯セシギト云テ以テ陪審否  
ト答フル時ハ無罪トメ之ヲ放チ或ハ親族ニ付メ照管セシメ

寛有

或ハ懲治所ニ於テ教育ノ陪審然ト答ノル時ハ有罪トハ仍ホ其罪ヲ減宥シ死罪及無期苦役ハ折減ノ十年以上二十年以下懲治所ニ於テ監禁ス有期苦役囚獄ハ半減或ハ三分一減メ懲治所ニ監禁ス民權利奪ハ一年以上五年以下監禁ス其輕罪ハ減メ本罪ノ半ヲ過キス

二日ハロウヲカシ鬪毆理直 九毆擊及其它ノ重キ強暴ヲ對拒メ殺

傷毆擊シタル者之ヲ鬪毆理直トス原語アロウヲカシ一日毆

擊及重強暴ヲ以テ其身或ハ其變重スル所ノ者ヲ侵ス者ヲ對拒

ス二日白晝牆ヲ踰ヘ或ハ戸ヲ破テ家ニ入ル者ヲ拒ク暗夜

テハ依理三日其家夫婦同於テ焚スル者其所

二 於テ夫其ノ妾婦姦夫ヲ殺ス四日強姦スル

者ノ陰具ヲ找ノ強姦ヲ拒テ之ヲ殺ス者ハ依理

ヲ找ノニ至テ事醜殘ニ涉タル故ニ無罪ノ例ニ

以上四條ニ因リ殺傷及ヒ毆擊スル者ハ死及ヒ

無期苦役折減メ監禁五年以上十年以下有期苦

役囚獄民權利奪折減メ監禁六月以上二年以下

其輕罪折減メ監禁六日以上六月以下トス

鬪毆理直ト依理自防ト分別アル者ハ依理自防

ク者ハ危ヲ避クルニ宅ノ方ナシ自ラ其權利ヲ

護ス鬪毆理直ナル者報復ヲ致ス

少年及闘毆理直ノ外猶特例数条アリ刑法百三十五條二百八十四條二百八十八條三百四十三條四百四十一條ノ如シ

酌減情状

シテシテスアテニユアト

酌減トハ法律ニ掲クル寛宥例ノ外法官或ハ陪審ノ權ヲ以テ各犯ノ情状ヲ酌量ノ其罪ヲ減降スルヲ云

寛宥ト酌減ト異ナル者第一寛宥ハ律ニ正文アリテ一定ノ條例アリ酌減ハ正文ナク定条ナク

專ラ法官及ヒ陪審之ヲ酌量スノ輕罪ハ法官酌減

ハ陪審酌減ノ權ヲ有ス 第二寛宥ハ或ハ全宥ニ或ハ減宥

ス酌減ハ減等スルニ過キズ第三寛宥ハ陪審問目ノ一条タリ酌減ハ問目ニ載ヤズ但タ會審長

官ヨリ陪審ニ告知スル而已第四寛宥ノ問ハ陪審中兩議平分六人然トスル時ハ其ノ然ト云

者ニ就ク輕ニ從酌減ハ衆說同然トス以上ニ非レハ宣告スル一ヲ得ス 酌減ヲ容易ニ

刑法四百六十三條酌減例重罪ハ一等或ハ二等ヲ遞減シ 死罪減メ無期若役(二等減)或ハ律條ニ

罪至重等ニ中ツル一ヲ掲クル者ハ 十四歳以下

酌減情状

司表



スル者定ムテ若役二十年減メ其ノ至輕等ニ就

キ若役五年或ハ猶ホ其ノ下一等ヲ減ス若役降メ囚獄

トス輕罪ハ監禁一年以上罰金五百コフランシ以上

減メ監禁六日罰金十六コフランシ以上トシ減降メ懲治罪

ノ至輕等其它猶ホ減メ五日以下十五コフランシ以

下トシ或ハ罰金コフランシ以テ監禁ニ折スルコフランシ得但

違警罪ヨリ輕クスルコフランシ得スコフランシ以下ニ

陪審酌減情状アルコフランシ判断スル時ハ裁判官必

ス一等ノ罪ニ減セサルコフランシ得ス若シ一等ヲ減

セサル者ハ大審院之ヲ破毀ス其ノ更ニ一等ヲ

減スルニ至テハ合セテ裁判官ノ意ニ随フ陪審酌

減ノ判セサル時ハ裁判官擅ニ減等スルコフランシ得

ズ千八百七十年十月二十七日ノ新法ニ於テ輕

罪遞減法ヲ廢シ凡ソ輕罪ハ皆減メ違警罪ニ降

スコフランシ得但違警罪ヨリ輕クスルコフランシ得ス其重

罪ハ旧ノ如シ

凡違警罪ハ降メ罰金一コフランシ以上ニ至ル

フコフランシ氏曰古昔法ニ定例ナク法官意ヲ以テ

權度ニ各犯ニ隨ヒ輕重ヲ酌量ス是レ今日

酌減法ノ起由ナリ然ルニ昔時ノ制ニ從ヘ

司法官

ハ國民ノ命ヲ法官一人ノ意智ニ付テ勢不直不平ヲ起サレルヲ得ズ千七百九十一年ノ刑法書始テ法官ノ權ヲ限束シ易アル

ニ立法官ノ定章ヲ以テシ法官情狀ヲ酌量メ之ヲ上下スルハ獨リ懲治罪違警罪ニ止

マリ重罪ニ至テハ各条ニ定刑アリテ法官上下輕重スルヲ得ズ

八百十年那破倫氏ノ刑法書即千現行刑法ニ至テ酌量ノ法ヲ廣メテ二十年ヨリ多カラ積重罪ニ及フ十五年ト云ケル

ハ至重ノ刑ニ類スベシト云ノ類又始メテ酌減ノ權ヲ法官ニ与ヘ律文ノ外猶酌量減等スルヲ得セシム此時陪審酌減ノ權ナシ千八百三十二年那破倫三世トイハレ刑法改正

ノ新令ヲ至テ始テ酌減ノ法ヲ輕重罪ニ通行シ重罪ハ陪審其權ヲ有シ懲治罪違警罪ハ法官其權ヲ有スルヲ定メタリ按スルニ漢律各犯各条附スルニ定刑ヲ以テス曲尺ヲ得テ分寸ヲ求ルニ異ナラズ明知ノ人ニアラズト云氏文ニ据テ罪ヲ科スルヲ難カラズ乃佛國共和千七百九十一年ノ法ト符

ヲ同ス現行律各条乃輕乃重ノ等ヲ括ニ  
 限ルニ一定ヲ以テセス法官ヲメ便宜斟酌  
 メ上下スル一ヲ得セシム此レ至テ法ニ明  
 ナルノ人ニ非レハ一日モ以テ廷ニ立テ難  
 シ於是明法家論罪諸例ヲ説ク而メ其說繁  
 碎委曲一目ノ悉スベキニ非ズ又酌減法ニ  
 至テ其初メ寬慈ノ意ニ出ツ蓋シ常ニ有ル  
 ノ事ニアラス那破倫三世其權ヲ倍審ニ付  
 スルニ至テ陪審大拍律ヲ知ラズ苟モ寬  
 ルヲ以テ貴トシ其酌減ヲ宣告スル者十ノ

八九ニ居リ何ノ原由アルヲ問ハス律ニ大  
 罪死ニ入ル刑罪表ヲ閱スルニ佛全國毎年  
 死罪十名ニ上下スルニ過キス夫豈ニ大罪  
 無カラシヤ皆酌減メ死ヲ免ル、ナリ巴里  
 ニ伯父ヲ殺ス者アリ之ヲ判スルニ及テ酌  
 減メ苦役二十年トス是レ法律設クルト云氏  
 殆レド虚文タルニ過キサル而已ホアソナド  
 氏曰陪審ハ佛之ヲ英ニ取レリ酌減ノ法、其由テ  
 来ルイ巴ニ久シ英ニ倣ヘルニ非ズ革命ノ時陪審  
 ヲ用ヒシヨリ来陪審往々無罪ヲ宣告シ国

事犯ノ如キ尤モ寛釋スル者多ク政府ノ使  
トスル所ニアラス於是千八百二十四年殺  
生兇律及國事犯ニ於テ酌減法ヲ行フコトヲ  
許サズ無罪解放スル者ヲ轉メ斟酌降減ス  
元ト寛釋ヲ容易クセサルノ意ニ出ルナリ  
千八百三十二年始テ酌減ノ法ヲ通行シ又  
其權ヲ陪審ニ歸セリ

佛國陪審公草

陪審沿革

陪審原名ハ如カモリ如カトハ宣哲人ノ義國氏官吏ニアラ

ズメ審判ニ陪列スルヲ以テ特ニ神明ニ宣誓メ誠ヲ表

ス故ニ宣誓ノ名アリ 陪審ハ義譯ニメ  
直譯ニアラズ

陪審ノ制ハ上古猶太及希臘羅馬以來已ニ類似スル者

アリト云氏其ノ明カニ今日ノ原起ヲ成セルハ中古日

耳曼人ノ軍法ニ創マレリ日耳曼人軍士ノ訟獄ヲ決ス

ルニ其首長聽斷シ軍士中犯人ノ同列タル者七人或ハ

八人其廷ニ陪列セリ其法後英吉利ニ傳ヘタリ

英ニテハ九ツ訟獄皆陪審ヲ用フ刑事ハ小罪ヲ除クノ

外九ノ諸重罪及国事犯者死刑皆陪審ニ因ラズメ裁判  
 スル一ヲ得ス大陪審アリ小陪審アリ大陪審ハ被告人  
 ノ推問セシトスルノ前ニ先ツ其人果メ其罪ヲ追糾ス  
 ヲキヤ否ヲ判スル者無罪人未ダ寛科ヲ被ルニ至ラサ  
 ル氏亦故ナクメ其自由ヲ奪ヒ刑責慘呵ニ罹ラニ一ヲ  
 恐ル故ニ此ノ設ケアリ九ノ被告人ハ大陪審其糾若ヲ  
 許スノ後ニ非レハ法官之ヲ推問勾捕スル一ヲ得ズ已  
 ニ糾治ヲ許シ推問シテ後法官ノ問ニ應ニ其罪ノ有無  
 ヲ決スル者之ヲ小陪審トス民事ニ至ラハ重キ者ハ陪  
 審ヲ用ヒ及ヒ五リ一ナルバステルリシクハ越ル以上ノ  
 事件ハ原被各方其意ニ隨ヒ陪審ヲ用ヒシト額ノ一  
 ヲ得

佛蘭西ニテハ專ラ重罪ニ於テ陪審ヲ用フルノニ其ノ  
 始メテ陪審ヲ用ヒシハ共和革命ノ初メ千七百九十二  
 年距今八十年前英ノ法ニ倣ヒ大小陪審ヲ設クルノ法  
 ヲ議定セリ那破倫治罪法ヲ定ムルニ至テ務メテ陪審  
 ノ勢ヲ殺キ大陪審ヲ廢メ更ニ上等裁判所中ニ論罪局  
 即チ重罪ヲ置キ以テ大陪審ノ任ニ當ラシメ小陪審ハ  
 取調局  
 其形ヲ存スト云凡其実ヲ奪ヒ陪審タル者ノ類族ヲ限  
 リ專ラ貴紳豪族ヲ以テシ黜除ノ權一ニ政府ニ在リ勢

威ノ下ニ屈シ意ヲ迎ヘテ黨ヲ成ス以テ觀美ヲ為ス  
 過キザルノミ那破倫七ヒテ路易十八世ノ初年王黨又  
 陪審中ニ在テ酷ニ那破倫黨ヲ芟鋤セリ千八百二十七  
 年ニ至リ陪審規則ヲ改革シ廣ク陪審ヲ舉グルノ法ヲ建  
 テ政府ノ官吏及ヒ縣令ノ知ル所ヲ以テ舉ケル者皆陪審  
 ノ籍ヲ削リ千八百四十七年更ニ潤色ヲ行ヒ凡ソ國  
 民ノ能カヲ備ヘ民權政權ヲ享ル者ハ類族ヲ論セス  
 皆陪審ニ列スルヲ得那破倫三世即位ノ後千八  
 百五十三年更ニ之ヲ修正ス即チ今ノ治罪法ニ  
 載スル所ナリ現今新共和ヲ建ルノ明年千八百七  
 十二年猶ホ改正ヲ行ヒ旧ニ比スルハ點擧ノ法愈々廣  
 正ヲ加ヘタリ其法後ニ見ユ

右ヨランゴールレ氏ノ陪審變遷論

陪審職務大意

千七百九十一年ノ建國法ニ陪審ハ事ヲ判シ裁判官ハ  
法ヲ科ス

ハレクローセリエ氏曰ルリ重罪犯ハ衆決ヲ以テ之ヲ理ス  
此ノ人此ノ罪ヲ犯セリ此ノ法此ノ罪ヲ罰ス此ノ人果メ  
此罪ヲ犯セル乎否ヲ知ラント欲スルヲ未知アルノ人  
ニ在テ犯状ノ虛實情意ノ良悪ヲ思察メ其罪ノ有無ヲ  
決スルイ難カラス是レ廣ク国民ヲ取り陪審ノ任ニ居  
ラシムル所以ナリ此ノ法果メ此罪ヲ罰スベキナラ論  
断スルニ至テハ必ス精學明法其人ヲ待ツ是亦裁判官



置ク可ハ指美トルハ  
置ク可ハ指美トルハ  
置ク可ハ指美トルハ  
置ク可ハ指美トルハ

ノ設ケナキ一能ハサレ所以ナリ陪審罪ノ有無ヲ判断シ  
法官律章ヲ按メ科断ス陪審事ヲ判シ法官ハ法ヲ判  
ス是レ其ノ別ナリ今陪審ヲ置ク可ハノ精義何如ト  
問ニ至テハ一ニ曰陪審ハ平民ニメ犯人ト平等同列ニ其  
スキハイノ生意ヲ同クシ其位置ヲ同シ其精利害ヲ同シ犯人ノ情  
状ヲ洞和スルニ易シ高名ナル法官トセルロシ氏曰百七  
十一若シ事ヲ判スル者ヲメ犯人ヨリ上等ナラシメバ  
其人ヲ知ル一能ハズ其ノ之ヲ賤ムヲ以テナリ若シ事  
ヲ判スル者ヲメ犯人ヨリ下等ナラシメバ亦其人ヲ知  
ル一能ハズ其ノ之ヲ怨ムルヲ以テナリ之ヲ賤ム字意ヲ

留メズ之ヲ怨ムル字直ヲ持セズト是レ陪審ノ第一義  
犯人ト平等ナルニ在ルナリ二曰陪審ハ平民通常ノ人  
ニメ假ニ審廷ニ陪列シ平易真淳美知ニ任メ文法ニ拘  
泥セズ法官ノ法ヲ以テ常習トスル者ト同カラズ千七  
百六十八年魯西亞ノ女帝「カテリス」其立法官ニ論スノ  
令ニ曰ルソ罪犯ヲ推討スルハ才如辯慧ナルヲ要ス已  
ニ得タルノ罪ヲ判スルニ至ラハ平易ノ民知アルノ常  
人告發呵責ヲ以テ習トスルノ法更ニ勝レル一遠シト  
是陪審ノ第二義平中不偏ナルニ在ルナリ  
陪審心得書掲ケテ陪審議事堂ノ扁額トス其大意曰

陪審ノ務ハ心証ニ在リ諸件証憑ニ拘ハラズ只靜默沈  
思メ自ラ已レニ問ニ明知誠實ヲ以テ本心ノ感覺何如  
ト求メ以テ罪ノ有無ヲ決スル而已 全文治罪法ニ見ユ

陪審員數

千七百九十一年建國法曰陪審ハ十二人ヨリ少キコトヲ

得ス 言ハハ十二人ヨリ多カルベキ  
モ十二人ヨリ少カルヘカラス

治罪法第三百九十四條曰十二人ノ數ハ陪審ヲナス為

ニ欠クヘカラズトス 若シ十二人ヨリ少キ  
時ハ裁判ノ效ナシキ 若シ推理數

日ヲ延フベキノ事ニ係ル時ハ十二人ノ外別ニ一二名

ヲ命シ共ニ審列ニ就カシム 此ノ時ハ十三人或  
ハ十四人ニ至ル 十二人

中故アリテ事未タ決セサルニ列ヲ欠ク時ハ助負之ニ

充ツ 對理ヲ開キシヨリ決裁スルニ至ル迄法官及陪審  
ハ必ス同人ヲ以テシ他人中カゴロ代ルトコトヲ得ス陪審

已ニ十二人ヲ欠クベカラズ又他人中コゴロ代ルヘカラス  
是レ豫メ助負ノ設ケアリテ不時ノ欠ニ備フル所以

リナ

古昔日耳曼武族ノ陪審ハ七人或ハ八人ヲ用ル者ハ  
 其法未タ備ハラザルナリ現今各國陪審ヲ用ル者十  
 二人ヨリ少キ一アル一ナシ蓋シ十二人ヨリ少キ時  
 ハ投票法ヲ成サズ英ノ大陪審ハ三十二人ヲ用フル  
 十二人中其一ヲ陪審長トス大抵抽籤第一ヲ得ル者或  
 ハ衆ノ推ス所ノ者ヲ以テ之ヲナス

陪審約束

凡佛蘭西人タル者全國ノ民皆陪審タル一ヲ得但タ其  
 約束數條アリ一曰年全周三十二滿タサル者陪審タル  
 一ヲ得ス 英ノ法二十一歳ヲ越ル者陪審タル一ヲ得米  
 利堅諸州之ニ因ル瑞西ハ二十五歳陪審タル  
 一ヲ得三十以上ヲ以テ陪審ノ歳ニスルハ那破倫ノ政  
 延ハル所ニメ既日多希臘羅馬ノ古法ニ据ハト云

延定議

權民權族權ヲ失ヘル者ハ陪審タル一ヲ得ス重罪ヲ以  
 テ体刑或辱刑ヲ受ケシ者重罪減等ヲ以テ懲治刑ヲ受  
 ケシ者軍士ノ苦役罪律ヲ受ケシ者九ツ三月以上監禁ヲ  
 受ケシ者賊盜詐偽艾強不行侵奪無産乞巧捏造脅迫誣  
 罔漏洩及詐詐免兵役ノ類ヲ以テ監禁ヲ受ケシ者 長短  
 論

セ財ヲ貸シ不法ノ息ヲ納ムルヲ以テ罰ヲ被リシ者監禁或ハ罰金公

訟人書記人ノ類罪ヲ得テ職ヲ免シタル者ハ終身陪審

タル一ヲ得ズ其它一月以上監禁ヲ受ケタル者ハ三月

五年ノ間陪審タル一ヲ得ス國事犯者刺犯ノ以テ監

禁ヲ受ケタル者ハ輕重ヲ論セス三月以上以下ヲ論セス五年ノ

間陪審タル一ヲ得ス一条千八百十二年新法分散人未タ復推テ得

サル者治産禁ヲ受ケシ者現ニ重罪ノ告發ヲ受ケタル

者現ニ勾留狀捕繫狀ヲ得タル者ハ陪審タル一ヲ得ズ

終身ニ已上不得為陪審一類トス二日諸執政上院長下

院長國議員諸省大書記縣令下令縣令下縣令下縣令下縣令下縣令下

判官目代官警察使官許法僧海陸軍現役士卒稅務官林

電信ノ官吏郷校ノ授業師ハ陪審ヲ兼ル一ヲ得ス或ハ

ヲ避ケ或ハ其ノ務ヲ避ケ或ハ其ノ務以上不得兼陪審ノ一類トス千七百

年ノ新法ニ於テハ議院議員亦陪審ヲ兼ル一ヲ得ス三日奴婢及字ヲ讀ミ若クハ

書ク一ヲ知ラザル者及風痴人ハ陪審タル一能ハス右

不能為陪審ノ一類トス四日七十歳以上及日作メ生ラ

為ス者陪審タル一ヲ免レシム右免為陪審ノ一類トス

陪審輪點法

毎縣ニ重罪裁判アリ故ニ一縣ノ人民ハ本縣ノ陪審ニ  
 充ル各民ヲメ比陪審タルノ榮ヲ得セシムル為ニ輪點  
 法ヲ行ヒ區及郡皆陪審事務アリテ其事ヲ管理ス毎年  
 七月縣令令ヲ下メ各郡各區ノ戸口ニ比例シ陪審ノ徵  
 ス八月ノ初メニ每區陪審事務局ヲ開キ治安裁判官上席ニ本  
區内ノ邑長皆會ス  
 區ノ陪審タルベキ人ノ名氏ヲ登列ス一タヒ陪審トナ  
 リ務ヲ終ヘシ者ハ其明年續ヒテ陪審ノ務ニ就カシメ  
 各名籍成ノ郡裁判所ニ選リ九月ノ末ニ每郡人陪審事務  
 局ヲ開キ郡裁判官上席ニ郡内ノ治安裁判官  
及縣會議員ノ郡ニ出タル者皆會ス各區ノ籍ヲ總

へ其二分ノ一ヲ除キ其一分ヲ以テ一郡陪審年籍トシ  
之ヲ重罪裁判ヲ設クベキノ裁判所ニ送ル十二月ノ初  
ニ裁判所ノ長官各郡陪審年籍ノ総ヘアベセシノ順ヲ以  
テ各郡年籍ヲ合編シ一縣年籍トス一縣ノ陪審年籍成  
ル以テ明年ノ開會ニ具フ九ソ一縣ノ年籍ニ登ル者四  
百人ヨリ少ク六百人ヨリ多キ一ヲ得ズ桐リ巴里府三  
千人ヲ以テ限トス會ヲ開クノ期ニ至リ期ニ先ツ一十  
日以前ニ裁判長官廷ヲ開キ衆觀ヲ許シ年籍ニ就テ籤  
ヲ抽テ三十六名ヲ取ル別ニ補負四名ヲ抽テ合セテ四  
十名ヲ得之ヲ一會名籍トス一會トハ十五日ヲ以テス

各縣大抵毎三月重罪裁判一會ヲ引ク巴里府事繁ナル  
ヲ以テ會ヲ開ク一週間漸ナシホ十五日ゴトニ一會ヲ成  
ス裁判官及陪審共ニ一會一任四十名ハ即十五日間一  
會當ルノ陪審ナリ一會名籍成テ重罪裁判長官ニ送  
付ス長官間會ニ先ツ一八日前ニ四十名ノ喚召狀ノ發  
シ期日至テ又抽籤メ十二名ヲ取り一事件ノ陪審トス  
後ニ見ユ

右千八百七十二年ノ新法ニ據ル旧法ト稍異同ア

リ

重罪裁判用陪審方法

佛蘭西ニ於テハ陪審ヲ用ルニ獨リ重罪裁判ニ限ルヲ問

輕罪何故ニ陪審ヲ用ヒサル乎トホアソナ  
ード氏曰多ク國民ヲ煩ス一ヲ恐テナリ 重罪裁判ノ設

ケハ裁判官ト陪審トヲ以テ成リ互ニ相交持ノ平衡ノ

勢ヲナス 訟廷ノ位置裁判官正面ニ在リ 三員其ノ中 被

告人斜メニ其一傍ニ在リ 側面ス陪審位ノ一傍ニ在リ

又側面ニ延テ陪審ヲ被告入ト相向フ 被告入左側ニ在ル

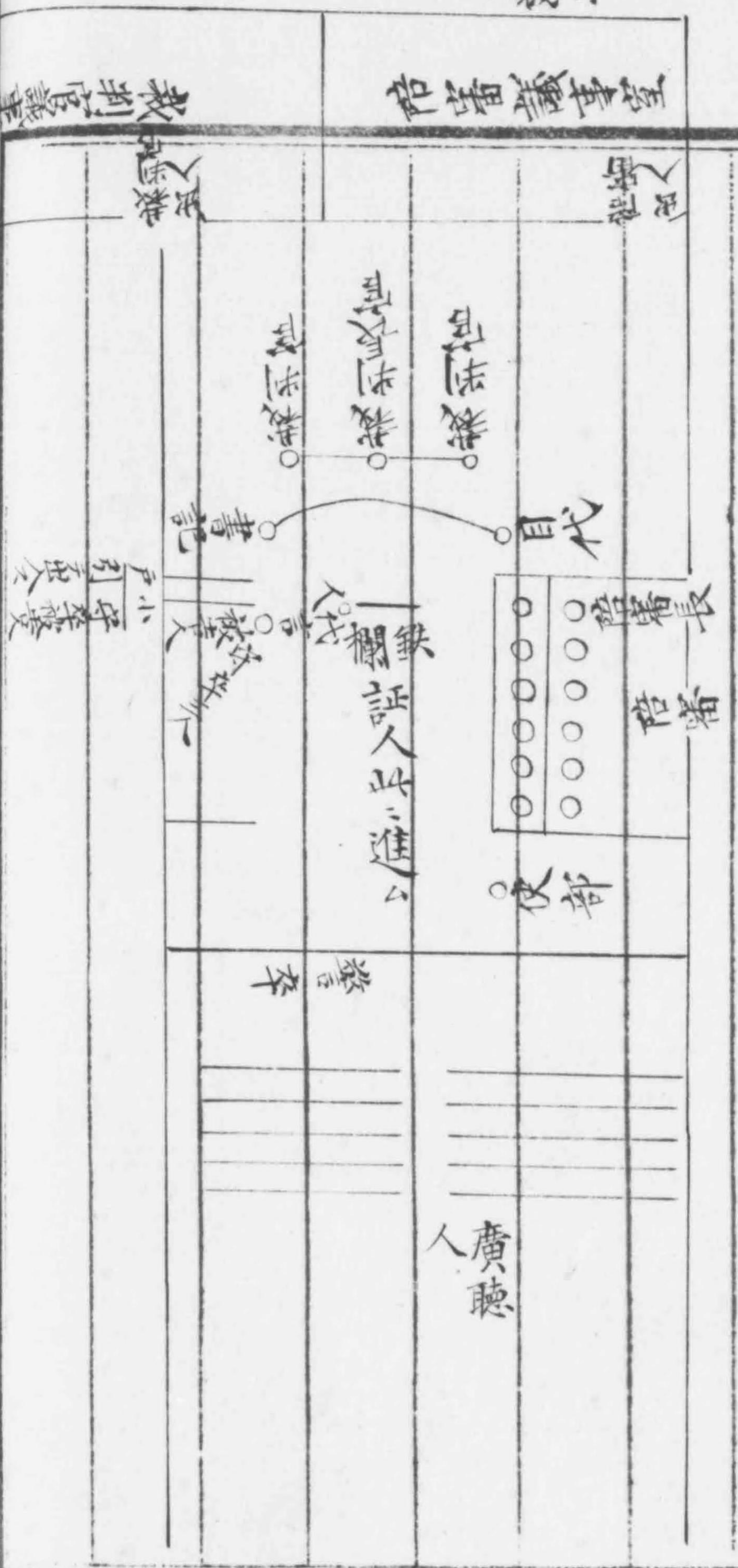
左右ハ其便ニ從テ定式ナシ但陪審必ス被告入ト 相向フ者ハ以テ被告入ノ顔面容色ヲ察スルニ便ス 十二

人ヲ分テ六人コトニ一列ヲナシ前後一列トシ後列稍其

席ヲ高クシ以テ瞻視ニ便ス後列ノ尤モ裁判官ニ近キ

第一座ヲ陪審長ノ位トス其右抽籤ノ前後ニ後ニ列ス  
就ク陪審各員ノ前ニハ筆墨ヲ具スル一宅ノ官員ニ同

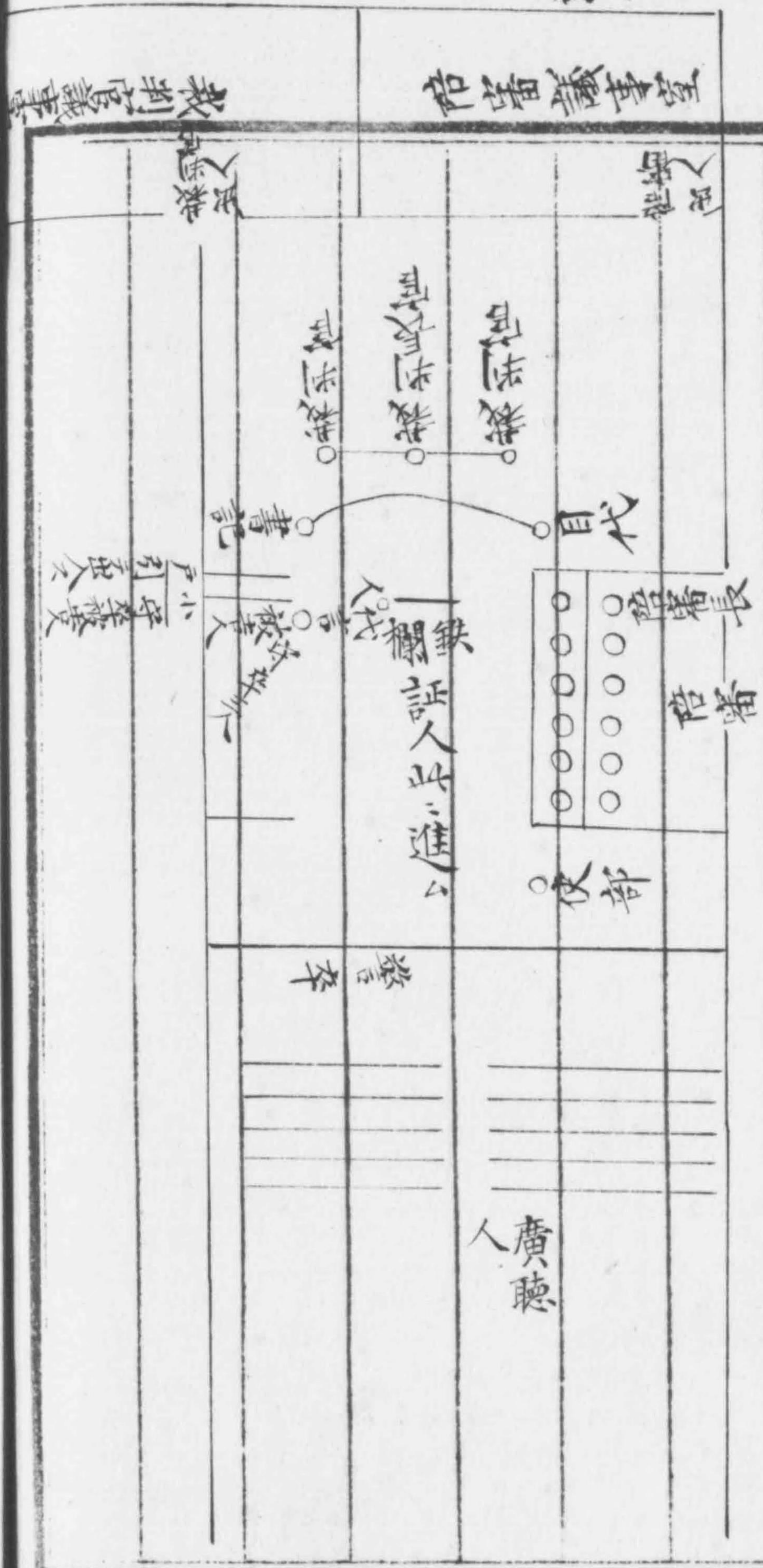
巴里府  
重罪裁  
判ノ圖



允リ重罪裁判毎會豫メ點名スル所ノ陪審四十名  
見開會ヨリ八日以前ニ裁判長官四十名ノ喚召状ヲ發  
シ期日ニ至リ毎事更ニ定員十二人ヲ抽籤ノ其法訟廷  
未タ開カサルノ初議事室ニ於テ被告人并ニ其代官人及  
目代座ニ在リ裁判長官書記官ニ命テ四十ノ名刺ヲ篋  
中ニ投シテ其ノ十二名ヲ抽キ出ス此時被告人名ヲ抽キ  
タル陪審ニ嫌情アル時ハ其原由ヲ述ルニ及ハズ其  
人ヲ拒ムコトヲ得目代亦同ニ双方共ニ拒障無キ所ノ  
二名ヲ得ルニ至テ定メテ之ヲ其事件ノ掛リトス陪審  
已ニ定リテ即刻訟廷ヲ間夕初メニ使部十二人ノ姓名



第一座ヲ陪審長ノ位トス其色抽籤ノ前後ニ後ニ列ス  
就ク陪審各員ノ前ニハ筆墨ヲ具スル一宅ノ官員ニ同



允リ重罪裁判毎會豫メ點名スル所ノ陪審四十名  
見開會ヨリ八日以前ニ裁判長官四十名ノ喚召状ヲ發  
ス期日ニ至リ每事更ニ定員十二人ヲ抽籤ノ其法訟廷  
未タ開カサルノ初議事室ニ於テ被告人并ニ其代官人及  
目代座ニ在リ裁判長官書記官ニ命テ四十ノ名刺ヲ篋  
中ニ投シテ其ノ十二名ヲ抽キ出ス此時被告人名ヲ抽キ  
タル陪審ニ懸情アル時ハ其原由ヲ述ルニ及ハズ人其  
人ヲ拒ムトヲ得目代亦同ニ双方共ニ拒障無キ所ノ  
二名ヲ得ルニ至ヲ定メテ之ヲ其事件ノ掛リトス陪審  
已ニ定リテ即刻訟廷ヲ間夕初メニ使部十二人ノ姓名

ヲ呼抽籤ノ順ニ從序ニ從テ座ニ就カシム次ニ裁判官廷ニ臨ム使  
 部肅ヲ唱テ陪審廣聴人ト同ク帽ヲ脱シ座ヲ起テ敬ヲ  
 ナス裁判長官陪審ニ座ヤヨト命ス衆皆持ニ着ク是ニ  
 於テ囚人ヲ引出シ其名姓御貫職業ヲ問フノ後長官陪  
 審ヲ成メ宣誓式ヲ行フ陪審皆起テ聴ク其詞ニ云

諸君精切ナル注意ヲ以テ本名ノ罪証ヲ審査スル事  
 被告人ノ權利ヲ欺カズ又被告人ヲ告訴セシ國民ノ  
 權利ヲ欺カサル事汝ヲ判断終ルニ至ル迄他人ト語  
 ヲ通セサル事怨恨仇悪畏懼情好ヲ用ヒサル事罪証  
 ト答辯トニ從ヒ正直自由ノ人ニ應スル所ノ公平堅

確ヲ以テ汝等ノ良知汝等ノ心証ニ任シ自ラ決スベ  
 キ事ニ付テ神及人ニ對シ誓約セヨ語終テ長官又順  
 ヲ遂テ陪審各員ノ姓ヲ呼ブ呼フ毎ニ各員右手ヲ揚  
 グテ我レ之ヲ誓フト答フ然ル後椅ニ着ク

陪審宣誓式已ニ終テ裁判長官被告人ヲ推問ニ次ニ証  
 人ヲ問質ス此ノ間陪審靜聴ノ語ヲ發セズ若シ問答ノ  
 中重要ノ処アレハ長官時ニ陪審ニ向テ之ヲ警廢シ或  
 ハ証憑ノ欠書若クハ物件殺傷ノカ杖賊ヲ陪審ニ指示  
盜ノ機械ノ類シ或ハ之ヲ傳視メ事汝ヲ驗察セシム使部傳示又陪審  
 各員所見アル時ハ裁判長官ノ許可ヲ乞フテ被告人及

証人ヲ問訊スル一ヲ得又乞フヲ長官ヲメ原被双方ノ  
 証人ヲ再問シ或ハ更ニ進マセテ之ヲ反覆シ其異問ヲ  
 比較スル等ノ一ヲナサシムル一ヲ得目代亦此推ヲ有ス推問畢テ  
 原被双方ノ論説始タル初メニ目代坐ヲ起テ陪審ニ  
 向ヒ凡ソ陪審ニ向ヒ陳言スル時ハ目代代官人共ニ坐起ツ  
 之ヲ敬重スルナリ只裁判長官ハ坐ヲ起ツ  
 シテ告訴糾弾ノ趣旨ヲ陳明シ終リニ被告人ノ代官人  
 亦陪審ニ向ヒ答辯防護ノ説ヲ盡ス對論畢ルノ後裁判  
 長官亦陪審ニ向ヒ其ノ一件ノ首末ヲ約シ厚被双方ノ  
 理趣証拠ノ重要ナル節目ヲ提テ之ヲ畧説シ陪審ヲメ  
 彼此ノ間ニ瞭然タラシム續ヒテ裁判長官陪審告ケテ

曰諸君其室ニ退キ評議ヲ致メ後暗票ヲ以テ各自ノ意見  
 ヲ速ヘ衆説ヲ合セ問目ニ答フヘシ問目第一ニ此ノ人云  
 ソノ罪アリヤ若シ果メ罪アリト思ハ、衆説然ト答ヘヨ  
 若シ罪無シト思ハ、否ト答ヘヨ第二ニ云々然或否ト答ヘヨ下評  
 答ヘノ條ハ問目各項ノ末ニ記入シ各負署名ヘシ更ニ被告  
 ノ為ニ酌減スヘキ情状アリト思ハ、衆説者酌減情状ト答ヘ  
 ヲ乃チ記スル所ノ問目書ヲ陪審長ニ交付シ及書類付使部送付  
 供ス陪審訟廷ヲ退ラ其議等室ニ入ル此ノ間陪審評議時  
 間ニ裁判官其室ニ退休ニ被告人又別室ニ退キ以テ陪審  
 ノ評決ヲ待ツ

陪審問目第一主目ノ例如ハ

本名何某ヲ殺シタルノ罪アリ乎

本名何某ノ物ヲ盗ミタルノ罪アリ乎

被告人ノ辯護目代ノ告訴事情同シカラサルヲアル

時ハ第二ノ問ヲ發ス例如ハ

本名何某ヲ殺スノ意ナク歐撃ニ死ヲ致セシ乎

本名何某ヲ何物ヲ盗ムノ意ナク假借取用セシ乎

若シ告訴及對理ニ據ルニ加重情状アリ或ハ從輕情状

アル時ハ加重ノ例

本名豫謀ヲ以テ殺ヲ犯セシ乎人命犯謀殺陰殺並ニ加重ヲ加ヘテ論ス

本名牆ヲ踰ヘテ盜ヲ犯セシ乎

賊盜牆ヲ踰ヘテ若クハ戸ヲ穿ツ者並ニ重ヲ

加ヘテ論ス

又從輕ノ例

本名殺ヲ犯シタルハ敵手ノ兇暴ニ因テ挑發セシ乎

本名盜ヲ犯シタルハ親族相盜ムニ係ル乎

右逐件各一項トシニ罪以上共ニ發スル者ハ又各分テ

一項トス多キ者或ハ十項ニ至ル同犯ハ各犯各別ニ問目ヲ發ス從

犯ハ其ノ果メ從タル乎ヲ問フ例如ハ

本名情ヲ知テ此ノ如キ犯事ヲ加功シタル乎不知情者從ト

スセ

其他陪審ニ問決スルノ事一端ナラス証人ノ陳スル所  
 前後異同アルカ如キ亦陪審ノ決ヲ待ツ事状曲折律文  
 比附ノ間疑似決シ難キ者アリ例如ハ昔昏賊盜アリ  
 白晝盜トセシ夜盜トセシ欵甲乙ノ毛髮ヲ斬ラント  
 スルヲ乙起テ甲ヲ殺ス是レ依理自防ノ類トセシ欵  
 或ハ非理殺トセシ欵此ノ類亦陪審ノ答ヲ待ツ問目ハ  
 裁判長官自ラ筆記シ其半欄ヲ白ニシ答語ヲ記入ス  
 ベカラスム

陪審評議

陪審已ニ問目書ヲ受取り其議事室ニ入り陪審長陪審  
 心得書ヲ讀ム前ニ次ニ問目第一項ヲ讀ミ一應評議ヲ

致メ後各其席ニ退キ密票ヲ作ル密票ノ式

|     |    |   |   |
|-----|----|---|---|
| 我が因 | 正義 | 我 | 知 |
| 我   | 宣  | 言 | 所 |
|     | 然  |   |   |

片紙廣サ各刺ニ  
 等ニ我カ正義云  
 ヲノ文豫メ刻刷  
 メ用ニ供フ

各負密ニ然或ハ否ノ字ヲ手書シ互ニ相照示セス又其  
 名ヲ録セス陪審長ニ付シ篋ニ投ス票集マルノ後陪審  
 長各員ノ前ニ於テ封ヲ投ク若シ然トスル者即チ罪  
 者六箇ヨリ少ク或ハ然トスル者箇トスル者即チ罪  
 ニ相平分スル時ハ其否ナ者ニ帰一ニ陪審長問目第

一項ノ下ニ「否」ノ字ヲ記入ス罪ノ疑ニキ者其若シ然

トスル者七ヶ以上ナル時ハ「衆説然」ノ字ヲ記入ス其各

員ノ票紙ハ封ヲ披クノ後直キニ火ニ投シ互ニ其議何

タリシ字ヲ知ラザラシム暗票ヲ密作シ及ヒ之ヲ火ニ

付スルハ「罪人ノ怨仇ヲ避ケ

シタル」第一項ノ向目ニ「畢ル若シ否即チ無罪ナル時ハ更

ニ第二以下ノ問目ニ及フヲ待タズ若シ然即チ有罪ナル時

ハ逆次ニ第二以下ノ問目ヲ評議メ之ヲ投票スルノ前

ノ例ニ同シ第二終テ又第三ニ及フ其加重ノ問ハ「否」ト

書シ或ハ「衆説然」ト書スルノ前ニ同シ從輕ノ問ニ至テ

ハ大然六否ナル時ハ「然」即チ輕ト書シ五然七否以上六

衆説否即チ不ト書ス前例ト相及ス亦疑最終ニ陪審長

口ツカラ「酌減情状アリ乎」ノ問ヲ發シ六然六否ナル時ハ

否ニ決シ即チ酌減セズ若シ五然七否以上ナル時ハ「衆説有酌

減情状」ト宣告ス

陪審衆説例各國異同アリ英米二國ノ法ハ十二人其

ニ同説席一ナルヲ待テ始テ有罪ヲ決ス佛ノ法歴次

凌吏或ハ英米ノ關負同説法ニ倣ヒ或ハ八人以上同

説ヲ待テ有罪ヲ決シ七然五否以下ハ仍ホ無罪トス

疑罪ヲ輕クスルノ意ニ出ルト云氏韋免典者スル者

多ク往々世ノ不幸ヲ成ス是ニ於テ千八百五十三年

新法即千現行 定メテ七人同説ノ法ニ復ミタリ

ロシレ氏治罪法註説

ハシリーセリエ氏曰英ノ法闇負同説ヲラサレハ  
罪ヲ決セズ十二人中一人異議ヲ報ル時ハ遷延ノ議  
ヲ費シ其ノ帰一セサルニ至テ罪人寛縱セザル一ヲ  
得ズ此レ亦世ニ害アル一少カラス加之英國相公ノ  
旧法更ニ甚々野僻ナル者アリ十二人一議ニ叶同ス  
ル一其實或ハ難ニ是ニ於テ一ノ方便ヲ設ケ陪審室  
ニ入り議決セサルノ間ハ戸ヲ鎖メ暗冥ナラシメ冬  
火ヲ与ヘズ饑ルニ食ヲ与ヘズ時移リ日傾クノ後

其弱キ者久シク居ルニ堪ヘズ大抵它ノ説ニ留  
同ニ強固執拗ナル者毎常勝ヲ占ムル而已是レ  
莫ノ論者モマタ切ニ其非ヲ議スルトコトナ  
リ

ウグロシ氏曰千八百三十六年五月十四日ノ法始テ  
密票法ヲ行ヒ票議ノ主名ヲ知ラザラシム時ニ法ヲ  
立テシ者ノ説ニ日人ノ有罪ヲ論シ其死生ヲ決スル  
一直亮ノ人ト云ハ民往々嫌疑恐懼ノ意ナキ一能ハ  
ス況シヤ乱離ノ時ニ在テ黨援強盛ノ徒暗ニ人心ヲ  
脇制スルニ足ルナリ加之陪審タル者罪犯ト大抵隣

里相識ルノ人一言ノ故ヲ以テ罪彼ノ身ニ加フ其ノ  
父子兄弟タル者ニ向テ顔情忍セサルト無カラシ字  
於是密票ノ法暗ニ投メ其蹤ヲ減シ互ニ相知ラシム  
ス外人ヲメ其説ノ出ル所誰タルトテ問フニ由ニ十  
カラシム陪審ノ氣ヲ鼓メ其直ヲ執ラシムル所以  
ナリ

酌減

凡ソ重罪ヲ酌減スルハ陪審其權ヲ有ス輕罪ハ法官酌  
減トハ律條ノ外ニ於テ情狀ヲ酌量ノ其罪ヲ減降スル  
ヲ云律條ニ寛宥例アリ即チ前文陪審酌減情狀アルト  
テ断スル時ハ裁判官罪一等級或ハ二等級ヲ遞減スルト其

意ニ随フ但タ必ス一等級ヲ減セザルトテ得ス陪審若シ

酌減ヲ判セザル時ハ裁判官敢テ已レノ意ヲ以テ減等

スルトテ得ス初メ裁判長官問目書ヲ陪審ニ付スル時

ニ酌減ヲ判スルハ陪審ノ權ニ在ルトテ口諭ス但タ之ヲ

問目ニ載セズ陪審議事ノ終ニ至テ陪審長衆ニ向テ酌

減有無ノ問ヲ發シ六然六否トテ時ハ否ニ決シ更ニ問

目書ニ記入スル事無シ若シ然有酌減トスル者多キ時

ハ七人始テ之ヲ宣告スト例ニ異ニシ及衆説例亦異

ナリ是レ酌減輕ヲク施メ刑  
律嚴ヲ失フトテ恐ルナリ

那破倫一世ノ治罪法ヲ定ムル時ハ酌減ノ權法官



ニ与ヘ仍ホ懲治罪ニ止マリ重罪ハ酌減セズ千八百  
 三十二年耶破倫三世刑法改定ノ新令ニ至テ始テ酌減  
 ノ法ヲ輕重罪ニ通行シ又重罪酌減ノ推テ陪審ニ帰  
 ス此ノ後陪審酌減ス判スル者大抵三分ノ二ト四分  
 ノ三ニ居ルトホアツナトレ氏律ニ大罪死ニ入ル者數  
 條刑罪表ヲ閱スル佛全國毎年死罪十名ニ上下ス  
 ルニ過キズ是レ大罪ナキニマラス皆酌減ノ死ヲ免  
 ルナリ陪審ノ推亦重シト云ベシ

陪審答議未タ決セサルノ間戸ヲ鎖メ甚盛ヲ出ル  
 得ス外人其室ニ入ル一ヲ得ス備警卒ヲメ戸ヲ守ラ

シム背ク者ハ罰アリ議決メ問目答書成ル陪審長之ニ

名印シ終テ鈴ヲ鳴ス報知ス使部往テ戸ヲ開キ陪審坐

ニ復ル裁判諸官又廷ニ臨ム陪審評議時間大抵一時ヲ  
費ス尤モ長キ者三四時ニ

至ル一陪審廣廳人ト共ニ坐テ起テ敬ヲ致スト初ノ例

ノ知シ長官坐テ命メ後陪審問ニ議何如ト問フ陪審

長起テ手ヲ胸ニシ問目答書即チ陪審判  
斷ト答タル者ヲ讀ム日ク

我カ正義及我カ良知ニ因リ神人ノ前ニ於テ陪審

宣告スル所然或ハ然何々ノ罪アリ或ハ否

若シ第二ノ問アレハ順次其答ヲ宣讀ニ終ニ酌減情狀

アレバ宸說者酌減情狀ト述フ其書ハ之ヲ裁判長官ニ

上呈ニ使部傳遊ノ長官及書記官之ニ名印ス是ニ於テ

囚人ヲ喚出之書記官ヲメ之ヲ陪審判断ヲ讀示セシム

凡ソ陪審ノ判断ハ更ニ其ノ原由ヲ説ク一無ク長官又

其ノ原由ヲ問フ一ナシ或ハ有罪トシ或ハ無罪トスル

ノ更ニ有罪若クハ無罪或ハ有罪トシ或ハ無罪トスル

ナル所以ノ故ニ及ハス酌減ヲ判断亦同ニ或ハ罪ノ

ヲ以テ酌減シ或ハ素行良善酌減ヲ判断亦同ニ或ハ罪ノ

ナルヲ以テ酌減スル者アリ陪審ノ判断ハ更ニ上告ス

ル一ヲ得ズ陪審判断後ハ罪囚陳請スル所アリト云

モ更ニ未聽スル一無モ但前時糾弾推理ノ間定規ニ違

ヲ得但ニ其ノ有罪ト判断シタル者事按誤解スル一果々明白

ナル時ハ裁判官ノ推ヲ以テ留メテ後次ノ開會ヲ待テ更ニ

陪審ノ判断ヲ取ル一ヲ得誤解ハ答議中欠漏不法觀

知ルコトク口口氏ノ治罪語ノ三失アルヲ以テ之ヲ

法注説ニ詳ナリ今畧シ其無罪ヲ判シタル者ハ錯誤ト

云氏亦此ノ例ヲ引ク一ヲ得ズ以上陪審ノ事務トシ陪

審事ヲ判スルノ務是ニ至テ終ル是ヨリ後專ラ裁判

官法ヲ判スルノ務トス若シ陪審ノ判断無罪トスル時

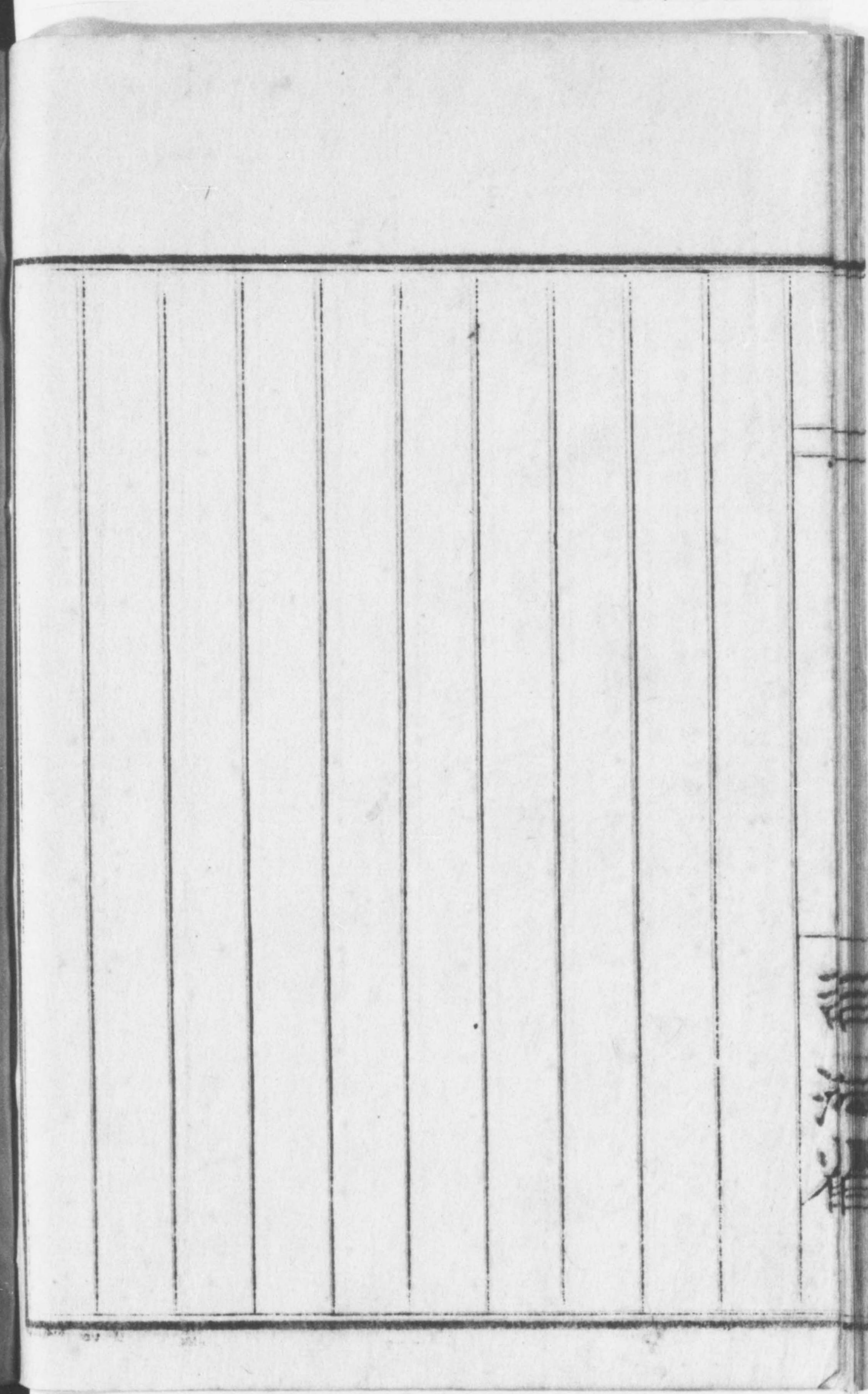
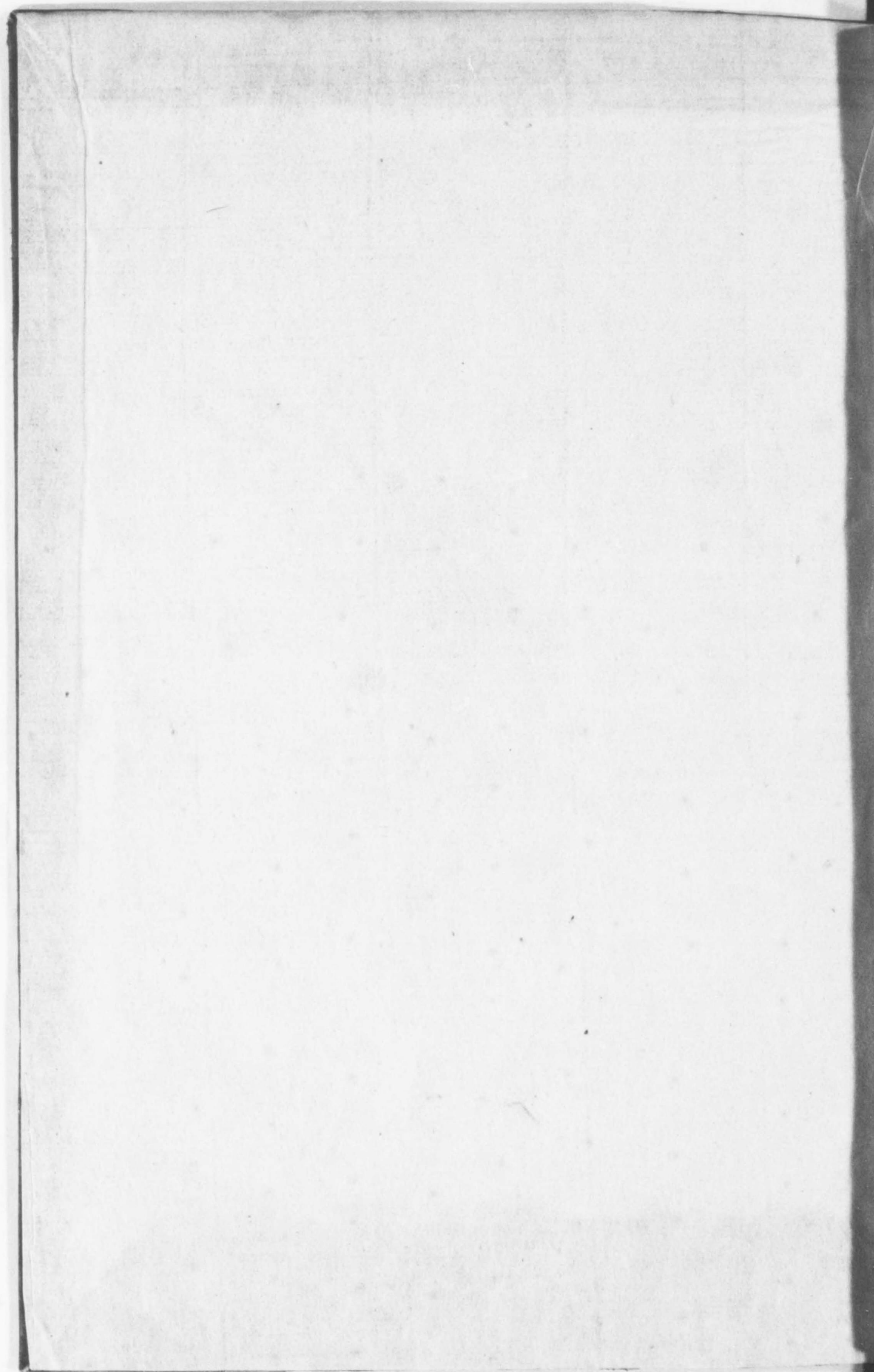
ハ裁判長官直ク之ヲ解放シ何等ノ説アリト云ハ此

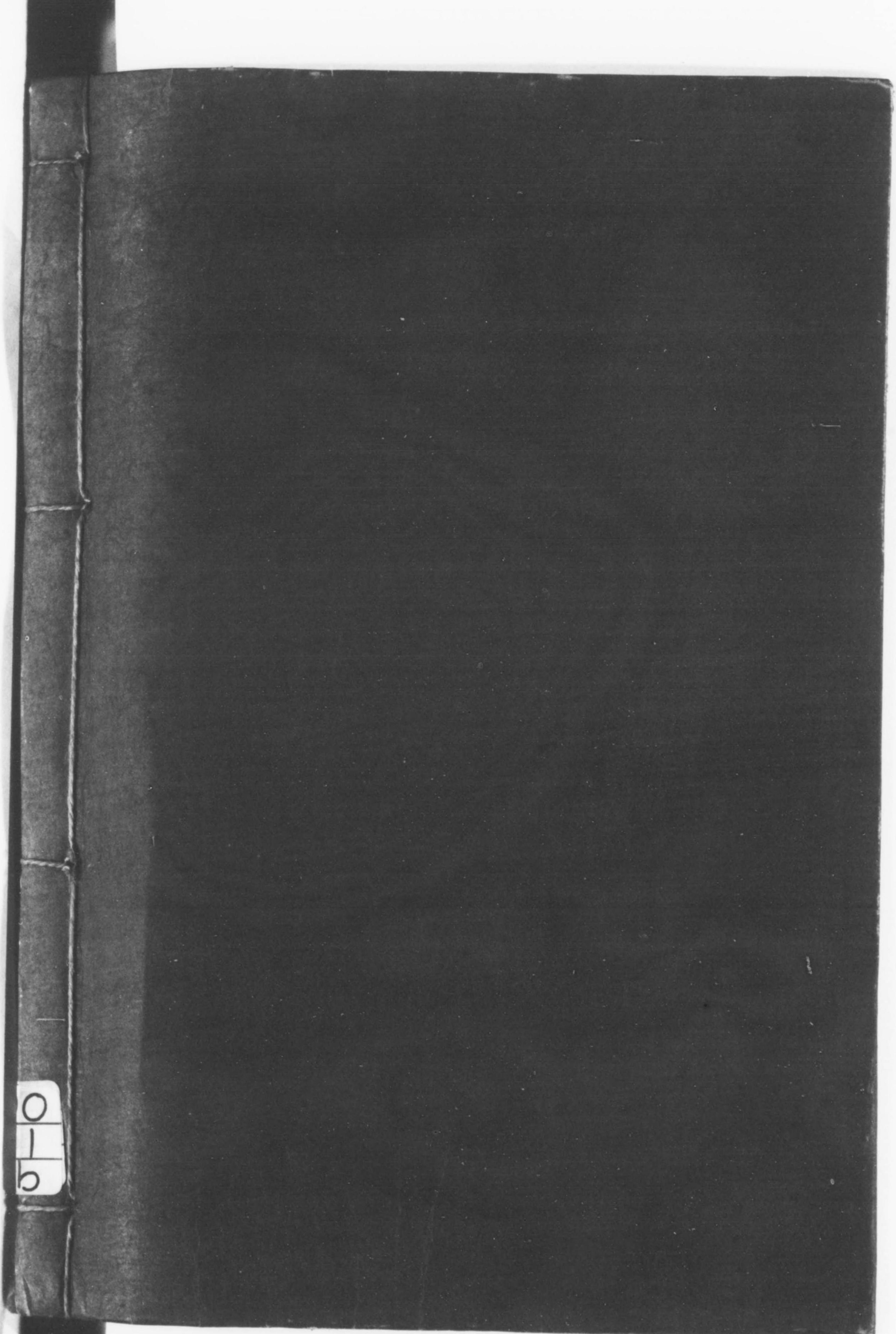
再ヒ之ヲ糾治スル一ヲ得ズ千七百九十一年建國法曰

者ハ再タニ其事故ヲ以テ告九ソ陪審ノ解放ヲ得タル

訴糾治セラレハ一ヲ得ズ是レハ被告人ノ慶ヲ与ハ

ハ必ス陪審ヲ判スル所ニ據リ事ヲ遂テ法ヲ措ク陪審  
ノ答ヲ經サル事件ヲ以テ構成スル一ヲ得ス就重就輕  
共ニ陪審ノ答ニ徇テ其ノ陪審ヨリ酌減宣告ヲナセシ者  
ハ從テ二等ヲ減降ス陪審ハ裁判宣告ニ至ル迄本坐  
ヲ去ル一ヲク以テ事終ルヲ待ツ





0  
1  
0